

# 1 推進計画中間見直しの概要と現状認識

# 1 推進計画中間見直しの概要と現状認識

## 山口市生涯学習基本計画における推進計画の中間見直しにあたって

### ① 中間見直しの趣旨

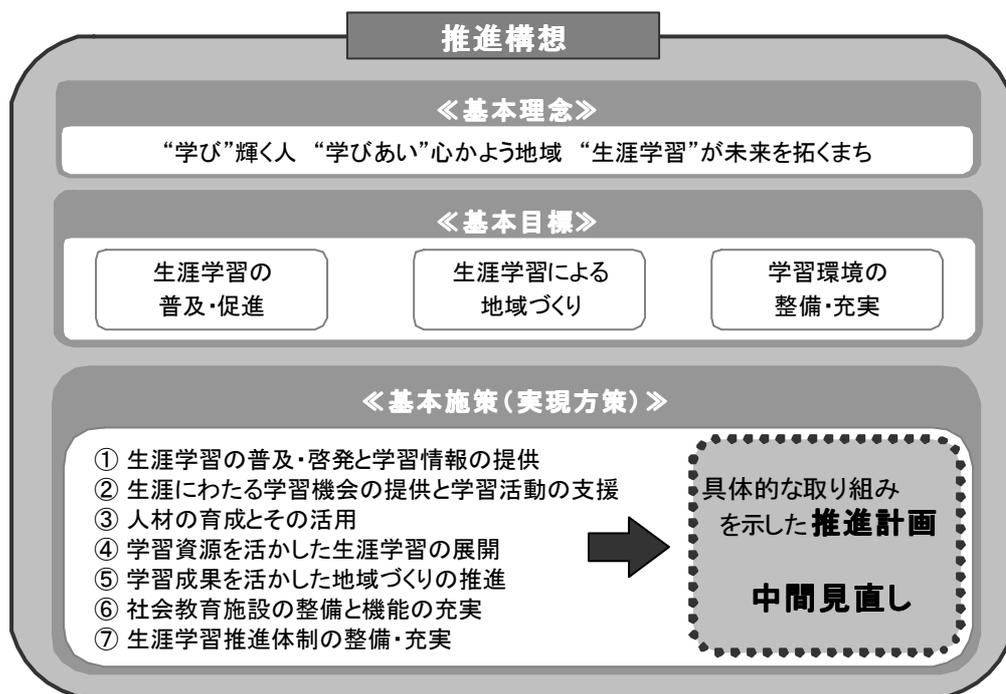
本市では、平成 20 年（2008 年）4 月に、山口市総合計画<sup>(用語説明 P52)</sup>の部門計画として「山口市生涯学習基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定し、基本計画に基づき、総合的な生涯学習の推進や、具体的な学習活動の支援、学習機会の提供などを計画的・組織的に取り組んできました。

この基本計画は、市民の生涯学習を支援するための基本的な目標を明らかにし、その実現のための方策を体系的に示した「推進構想」と、その推進構想を実現するための具体的な取り組みを示した「推進計画」で構成しており、上位計画である山口市総合計画の計画期間に合わせ、平成 20 年度から平成 29 年度までの 10 年間を計画期間としていますが、「推進計画」については、平成 20 年度から平成 24 年度までを前期計画期間、平成 25 年度から平成 29 年度までを後期計画期間としています。

計画の策定から 5 年が経過し、わが国を取り巻く社会情勢は、グローバル化の進展、産業構造の変化、高度情報化の進展、人口の減少など多様な変化を見せています。また、都市化や過疎化、高齢化の急激な進展など、地域社会をめぐる環境も大きく変化しつつあり、人と人のつながりの希薄化がすすみ、地域社会の組織力や潜在的な活力が活かされないまま、従来地域社会の持つ力が縮小しつつあります。一方で、東日本大震災の影響により、個々人が積極的に社会参画し、他者と協働<sup>(用語説明 P52)</sup>しながら主体的に互助・共助による活力ある地域づくりに貢献していこうとする気運も見られます。

本市においても、平成 21 年度に、地域における社会教育・生涯学習活動の拠点であった「公民館」を、新たに地域づくり活動や地域課題の解決を支援する機能を付加した、総合的な地域づくり活動の拠点「地域交流センター<sup>(用語説明 P52)</sup>」として設置しました。また、平成 22 年 1 月には阿東町との合併により県内最大の市域を有するまちとなり、平成 22 年度には、教育委員会生涯学習課を社会教育活動を所管・推進する「教育委員会社会教育課」と生涯学習活動・スポーツ活動を所管・推進する「地域振興部生涯学習・スポーツ振興課」に組織改編を行うなど、基本計画策定以降、本市の状況についても大きく変化していると言えます。

このような状況から、本市の生涯学習推進のための具体的な取り組みを示す「推進計画」について、社会情勢の変化や生涯学習推進のための新たな課題に的確に対応するため施策の検証を行い、後期計画期間に取り組むべき具体的内容の見直しを実施しました。



**社会情勢の変化**

- グローバル化の進展
- 産業構造の変化
- 高度情報化の進展
- 人口減少
- 都市化や過疎化、高齢化の急激な進展による人と人のつながりの希薄化
- 東日本大震災の発生による防災に対する関心の高まりや、地域社会の中で他者と協働しながら主体的に互助・共助による活力ある地域づくりに貢献していこうとする気運の高まり

**国・県の動向**

- 「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」【中央教育審議会答申】(平成20年2月)
- 社会教育法の改正(平成20年6月)
- 山口県教育ビジョン第3期重点プロジェクト推進計画の策定(平成22年6月)
- 「教育振興基本計画第2期計画の策定に向けた基本的考え方」(平成23年12月)
- 第6期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理【中間とりまとめ】(平成24年8月)

**市の動向**

- 総合的な地域づくり活動の拠点「地域交流センター」の設置(平成21年4月)
- 阿東町との合併により県内最大の市域を有するまちへ(平成22年1月)
- 教育委員会生涯学習課を「教育委員会社会教育課」と「地域振興部生涯学習・スポーツ振興課」に組織改編(平成22年4月)

# 1 推進計画中間見直しの概要と現状認識

## ② アンケート結果の比較による現状と課題

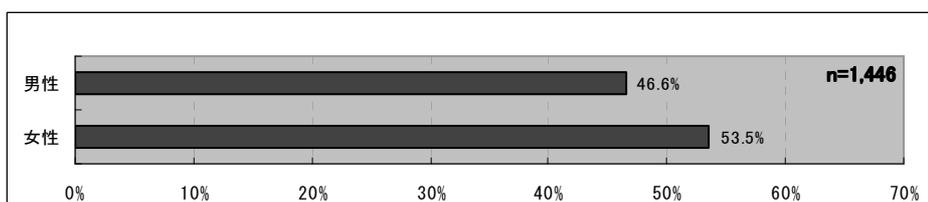
### 「生涯学習に関するアンケート」の実施概要

山口市生涯学習基本計画における推進計画の中間見直しにあたり、生涯学習に関する市民意識や考え方、学習活動への参加状況やニーズなどについて広く把握するとともに、平成18年度に実施したアンケート結果との比較を行い、推進計画見直しの方向性に反映させるための基礎資料とするため、平成24年2月3日から2月24日までを調査期間とし、無作為に抽出した18歳以上の市民4,043人を対象に「生涯学習に関するアンケート」（郵送法、無記名による自記式）を実施しました。

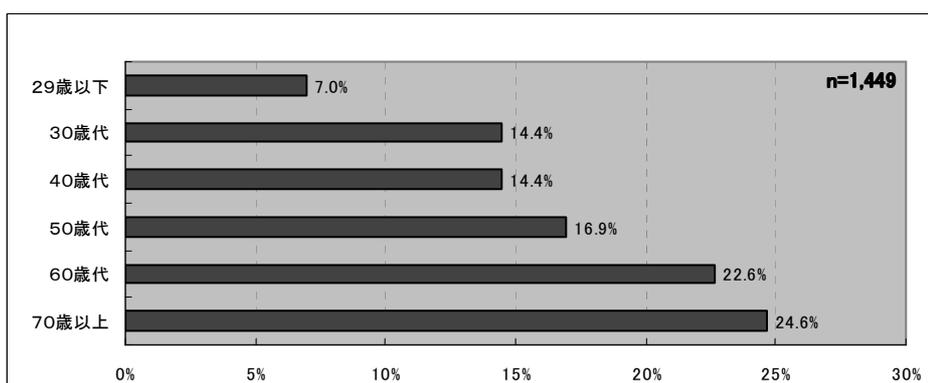
なお、有効回収率は、36.5%（事故票<sup>(用語説明 P53)</sup>を除く調査対象者数：3,990人／有効回収数：1,456人）でした。

### 「生涯学習に関するアンケート」の回答者の属性

(性別)

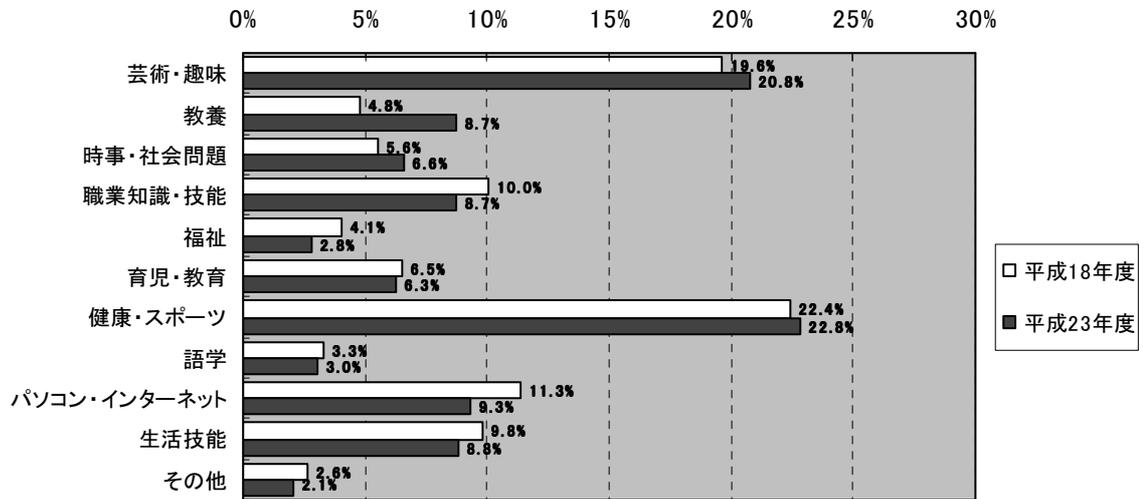


(年齢)



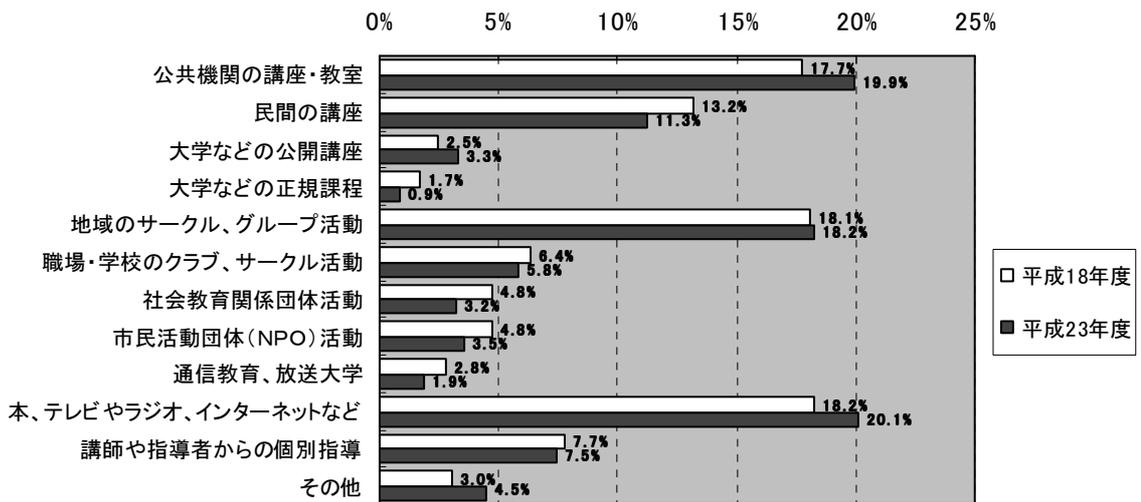
主な結果・分析① - 「生涯学習活動の現状」

この1年間にどのような生涯学習活動を行いましたか？（複数選択／全体）



- 前回の調査結果と同様に、「健康・スポーツ」（22.8%）、「芸術・趣味」（20.8%）など家事や仕事を離れて楽しむ分野のものが高い割合となっています。また、「教養」の割合が増加しています。
- 学習活動は多岐にわたっており、学習情報の集約やその提供方法の確立、学習活動に対する支援など、一層の学習環境の充実が求められます。

どのようなかたちで学習活動を行っていますか？（複数選択／全体）

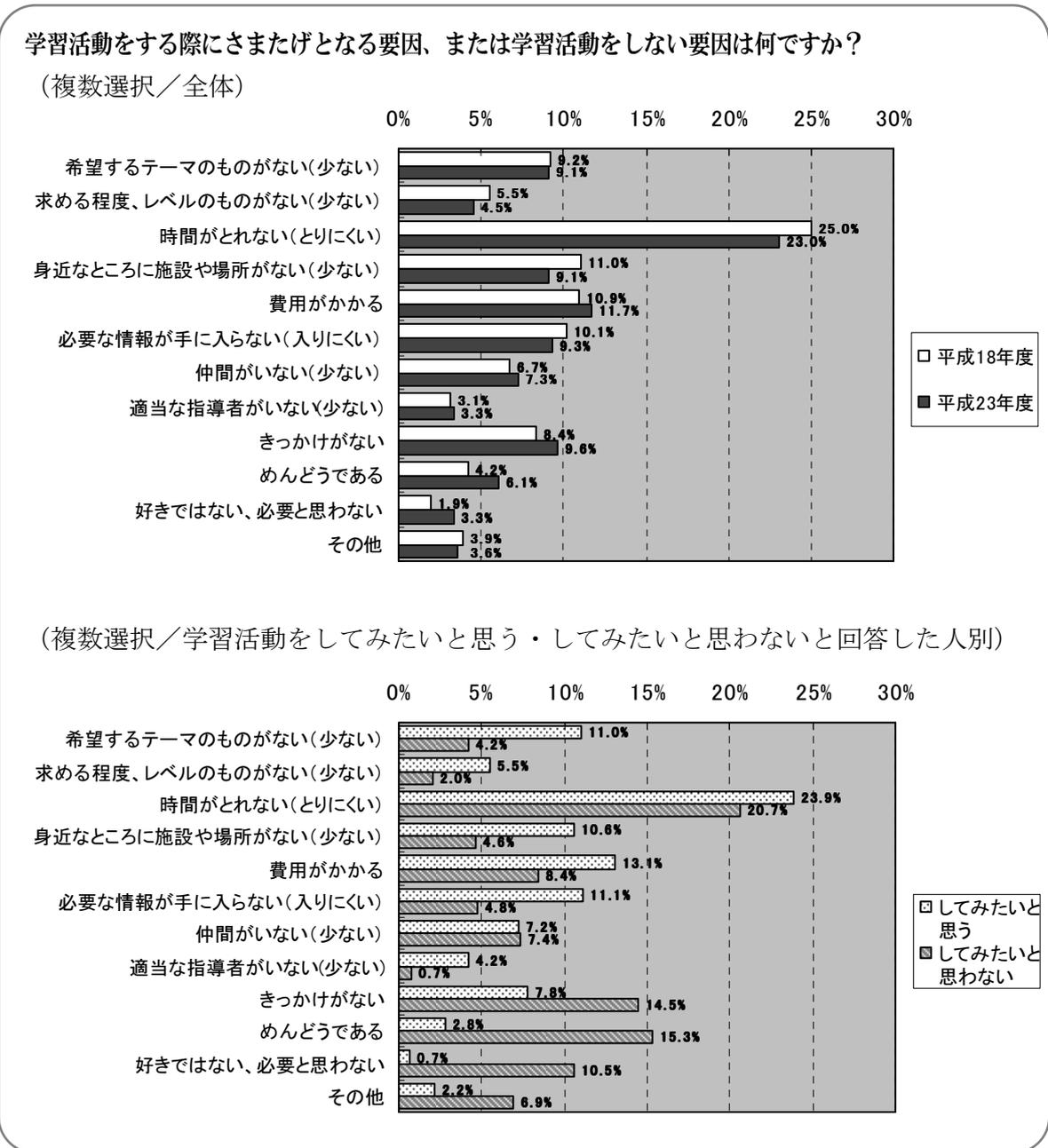


- 前回の調査結果と同様に、「本、テレビやラジオ、インターネットなど」（20.1%）、「公共機関の講座・教室」（19.9%）、「地域のサークル、グループ活動」（18.2%）が学習活動を行う上での柱となっています。

# 1 推進計画中間見直しの概要と現状認識

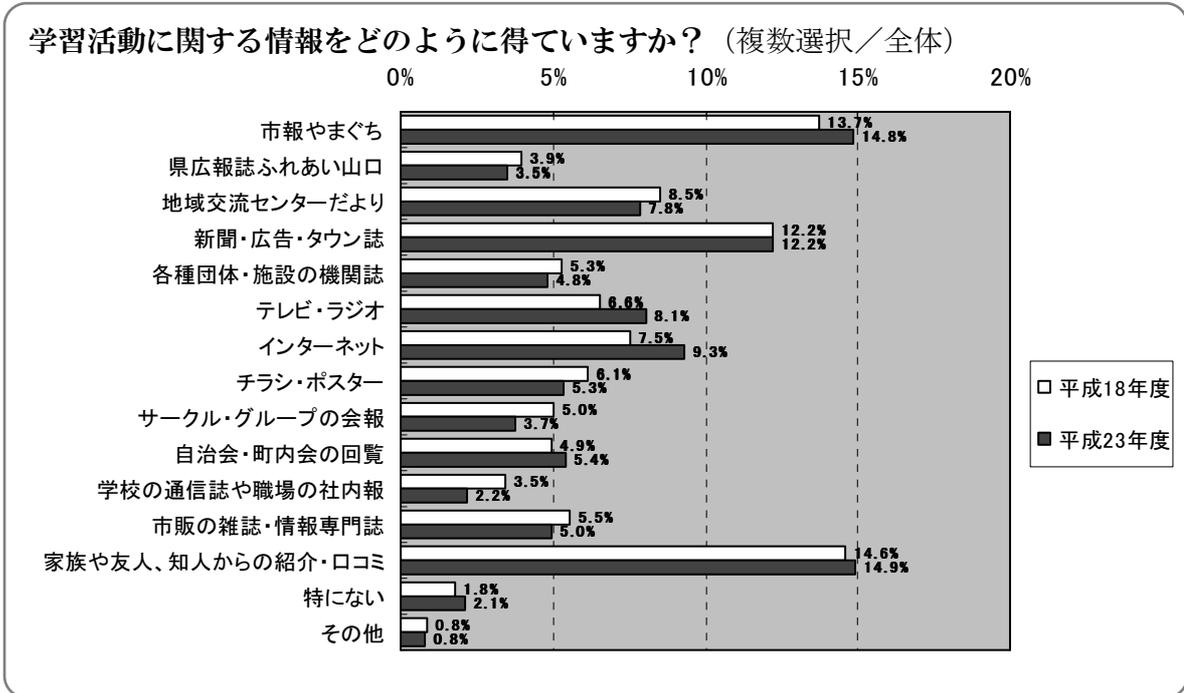
- 学習活動の形態は多岐にわたり、様々な学習活動が行われているため、学習活動に関するニーズの把握や、ニーズに応じた情報の整理・提供が求められます。

## 主な結果・分析② - 「学習活動のさまたげとなる要因、学習活動をしない要因」

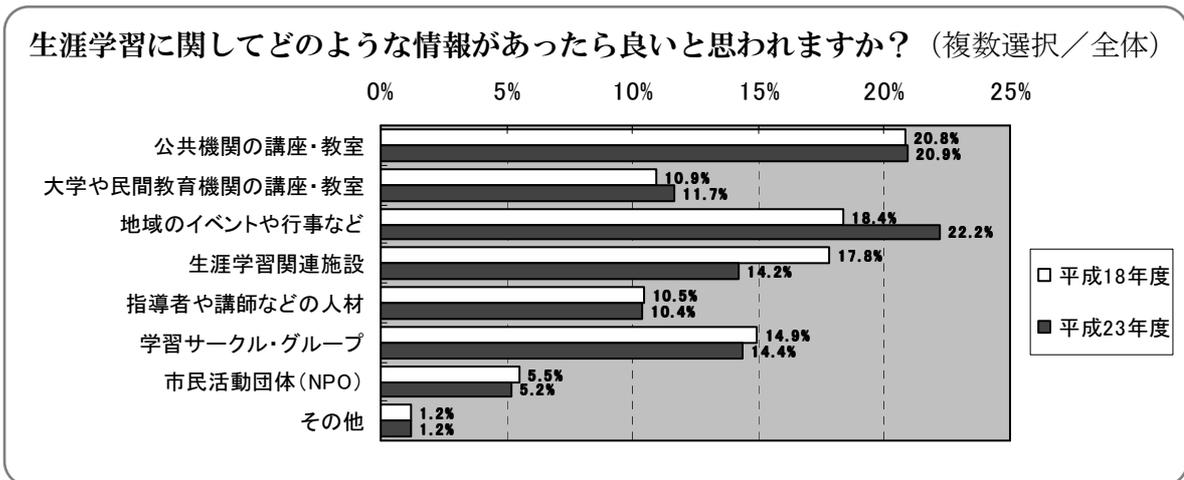


- 前回の調査結果と同様に、「時間がとれない(とりにくい)」(23.0%)が突出し、この他には場所、費用、情報など、様々な要因があげられています。
- 講座・教室等の開催時期や時間の工夫、インターネットの活用など、対象者のライフステージ(用語説明 P53)に応じた学習機会の提供が求められます。また、学習者を増やす上で、学習活動をはじめ身近なきっかけの場を創出することも重要となります。

主な結果・分析③ - 「学習情報」



- 「家族や友人、知人からの紹介・口コミ」（14.9%）、「市報やまぐち」（14.8%）、「新聞・広告・タウン誌」（12.2%）が前回同様高い割合となっています。また、「インターネット」（9.3%）、「テレビ・ラジオ」（8.1%）の割合が増加しています。
- 情報の取得方法は多岐にわたっており、対象者に応じたさまざまな情報媒体（用語説明 P53）の積極的な活用が求められます。



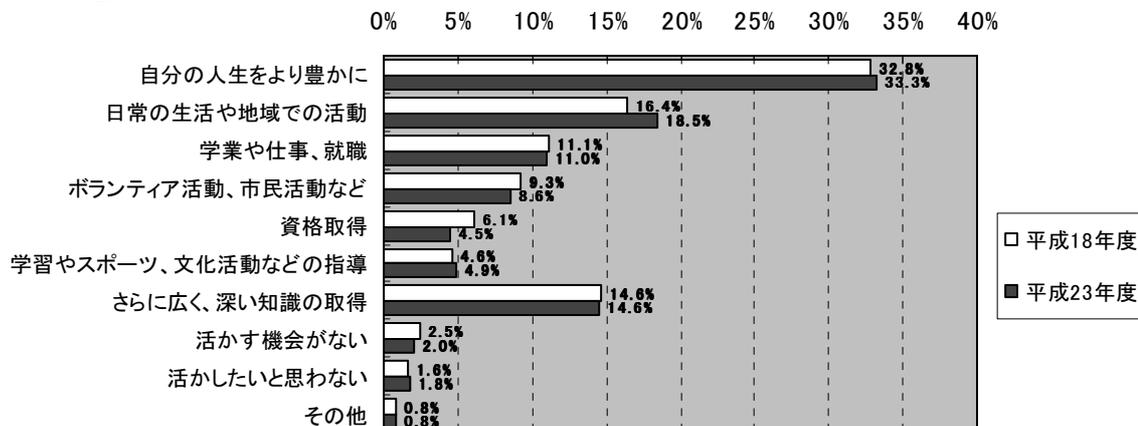
- 前回の調査結果と比較すると、「地域のイベントや行事など」（22.2%）の割合が増加しており、地域に対する関心が高まっていると考えられます。一方で、「生涯学習関連施設」（14.2%）の割合が低下しています。
- 学習活動において必要とされる各種情報について、収集・整理、提供の充実を図っていくことが求められます。

# 1 推進計画中間見直しの概要と現状認識

## 主な結果・分析④ －「学習成果の活用」

生涯学習を通じて身につけた知識や技能、経験などをどのように活かしていますか？

(複数選択／全体)

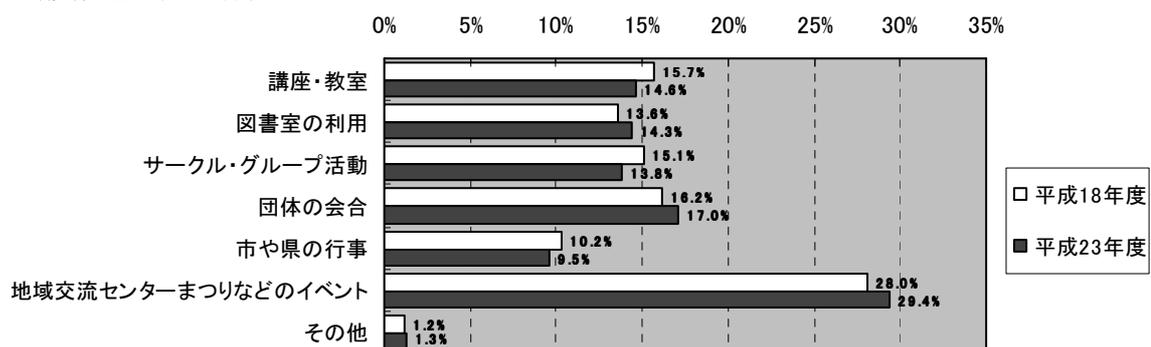


- 前回の調査結果と同様に、「自分の人生をより豊かに」(33.3%)、「日常生活や地域での活動」(18.5%)、「さらに広く、深い知識の取得」(14.6%)、「学業や仕事、就職」(11.0%)など、個人に関わることが多くあげられています。
- 学習の成果が個人レベルで活かされるだけでなく、学習の成果を地域活動や市民活動(用語説明 P53)に結び付けられるような環境づくりが求められます。

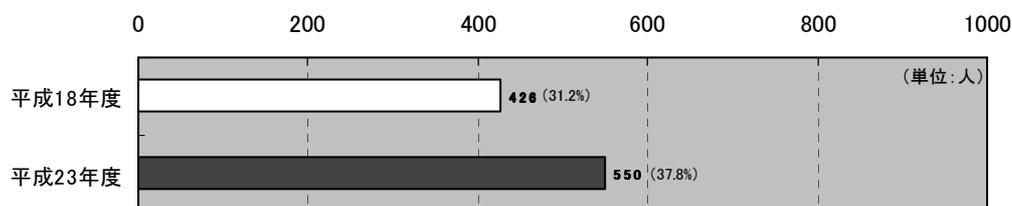
## 主な結果・分析⑤ －「地域交流センター(旧公民館)」

地域交流センターを利用したり、各種行事などに参加したことがありますか？

(複数選択／全体)



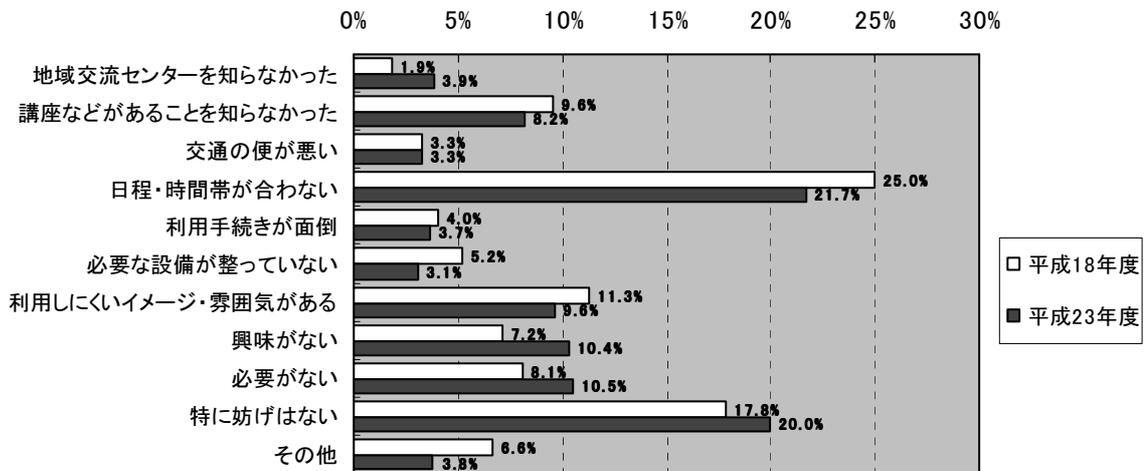
(参考) 利用したり、各種行事などに参加したことがないと回答した人数



- 「地域交流センターまつりなどのイベント」(29.4%)がもっとも多く、以下「団体(自治会・PTAなどの会合」(17.0%)、「講座・教室」(14.6%)と続いています。
- 前回の調査結果と比較すると、「利用・参加したことがない」と回答した人が増加しており、地域の生涯学習の拠点として地域交流センターを今後一層活かすためにも、利用しやすい環境づくりや、地域交流センターの活動を知ってもらうことが必要であると考えられます。

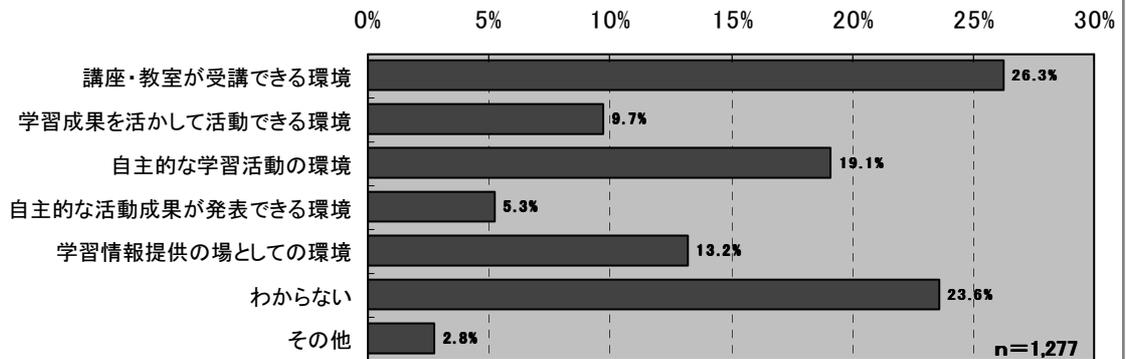
地域交流センターを利用する際にさまたげとなる要因、または利用しない要因は何ですか？

(複数選択／全体)



- 前回の調査結果と同様に、「日程・時間帯が合わない」(21.7%)ことが利用をさまたげる大きな要因となっています。一方で、「興味がない」(10.4%)、「必要がない」(10.5%)といった関心にかかわる項目の割合が増加しています。
- 地域交流センターの運営面において、講座・教室等の工夫や広報の充実、利用しやすいイメージ・雰囲気づくり等、様々な切り口から取り組む必要があります。

地域交流センターに必要なと思う学習環境はどのようなものですか？ (複数選択／全体)



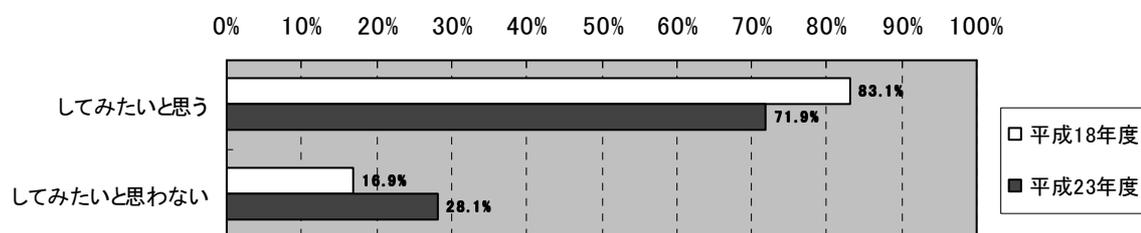
# 1 推進計画中間見直しの概要と現状認識

- 「講座・教室が受講できる環境」(26.3%)をはじめ、「サークル活動やグループ活動など自主的な学習活動の環境」(19.1%)、「学習情報提供の場としての環境」(13.2%)などの環境整備が多くあげられています。一方で、「わからない」(23.6%)と回答した人の割合も高くなっています。
- 学習活動の拠点機能の充実や、まずは地域交流センターの学習環境を知ってもらう・利用してもらうことも必要であると考えられます。

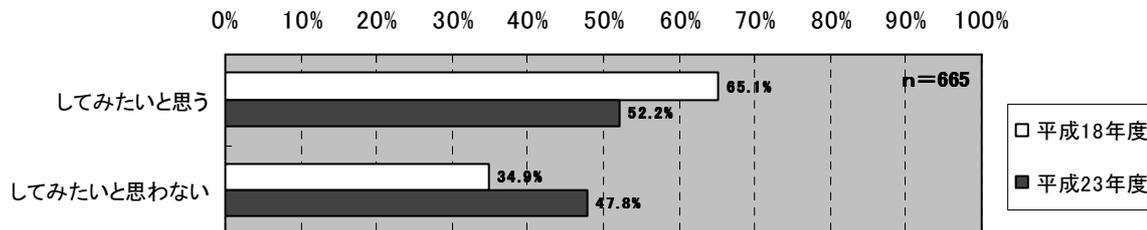
## 主な結果・分析⑥ - 「今後の生涯学習活動」

今後（今後とも）、生涯学習活動をしてみたいと思いますか？

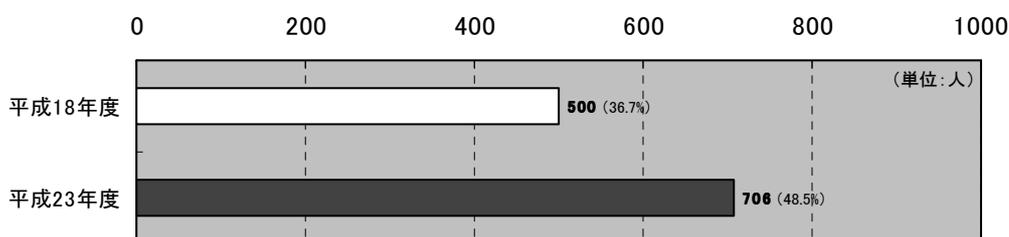
(一つ選択/全体)



(一つ選択/この1年間に生涯学習活動を特にしていないと回答した人)



(参考) この1年間に生涯学習活動を特にしていないと回答した人数



- 「してみたいと思う」と回答した人は71.9%で、「この一年間に生涯学習活動をしていない人」においても52.2%といずれも「してみたいと思わない」と回答した人を上回っています。
- 前回の調査結果と比較すると、「してみたいと思う」と回答した割合が10ポイント以上減少しており、学習活動に興味をわくような情報の提供やきっかけづくりの場の創出など、学習活動に対する意識の向上につながる取り組みが必要であると考えられます。

### ③ 中間見直しの視点

以上のような現状から、生涯学習においても、学びの成果を社会生活や職業生活に活かすとともに、学びによるつながり合いを高めることなどにより、人と人との絆を高め、地域課題の解決や地域の活性化などにつながるような取り組みを推進していくことが期待されています。そのためには、これまでの学びの成果や新たな学習資源の活用などによる、より一層の学習機会の充実を図ることが重要になると考えられます。

このようなことから、以下の視点に重点を置き推進計画の中間見直しを行いました。

#### ● 学習成果・学習資源の活用

学びの成果を、広く社会に活かせるような取り組みを推進します。また、専門的な知識・技術をもった個人や高等教育機関など様々な学習資源を活用した取り組みを推進します。

#### ● 学習情報の充実

総合的な情報提供の一層の充実を図るなど、多様化・高度化する市民の学習ニーズに対応した取り組みを推進します。

### ④ 成果指標の見直し

推進計画を構成する7つの基本施策には、各基本施策の達成状況をはかる成果指標を設定しています。

以下においては、中間見直しの視点をふまえ、現状値（平成23年度）を計画策定時（平成18年度）の値や前期目標値と比較することで、指標の見直しや今後の方向性を示します。

《基本施策》 ① 生涯学習の普及・啓発と学習情報の提供			
【成果指標】 今後(今後とも)、生涯学習活動をしてみたいと思う市民の割合			
策定時	現状値	前期目標値	評価及び後期目標値について
83.1%	71.9% 	88.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画策定時から学習活動をしたいと考えている市民の割合が11.2ポイント減少しており、前期目標値を大幅に下回っています。</li> <li>・普及・啓発や情報提供などの取組を強化することで、当初設定した後期目標値の達成を目指します。 ➡ P17</li> </ul>

# 1 推進計画中間見直しの概要と現状認識

<b>《基本施策》 ② 生涯にわたる学習機会の提供と学習活動の支援</b> <b>【成果指標】</b> 生涯学習の機会（講座・メニュー）が充足していると思う市民の割合			
策定時	現状値	前期目標値	評価及び後期目標値について
64.3%	69.3% 	67.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期目標値を2.3ポイント上回っており、順調に推移しています。</li> <li>・学習情報や学習機会の充実を図ることで、一層の成果の向上が期待されるため、当初設定した後期目標値を上方修正します。</li> </ul>  P19

<b>《基本施策》 ③ 人材の育成とその活用</b> <b>【成果指標】</b> やまぐち路傍塾(山口市教育支援ネットワーク)の利用件数			
策定時	現状値	前期目標値	評価及び後期目標値について
—	475件	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画策定当時、人材バンクが整備されていなかったため前期目標値は未設定です。</li> <li>・人材バンク機能として「やまぐち路傍塾」の運営を開始したことから、この利用件数を成果指標とし、後期目標値についても数値を新たに設定します。  P21</li> </ul>

<b>《基本施策》 ④ 学習資源を活かした生涯学習の展開</b> <b>【成果指標】</b> 高等教育機関との講座・教室等における連携件数			
策定時	現状値	前期目標値	評価及び後期目標値について
—	84件	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画策定時、連携の対象を「高等教育機関<small>(用語説明 P53)</small>・市民活動団体<small>(用語説明 P53)</small>等」としていたため、対象団体が広域にわたり数値の把握が困難となっていました。</li> <li>・対象団体を「高等教育機関」とすることで、現状値の把握を行い、後期目標値についても数値を新たに設定します。  P23</li> </ul>

<b>《基本施策》 ⑤ 学習成果を活かした地域づくりの推進</b> <b>【成果指標】</b> 学習活動をしている人のうち、学習成果を家庭・地域に活かしている市民の割合			
策定時	現状値	前期目標値	評価及び後期目標値について
43.9%	49.9% 	50.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期目標値を 0.1 ポイント下回っているものの、概ね順調に推移しています。</li> <li>・個々人が適したかたちで学ぶことができ、その成果を地域づくりに活かせるような体制づくりを進め、後期目標値の達成を目指します。➡ P25</li> </ul>

<b>《基本施策》 ⑥ 社会教育施設の整備と機能の充実</b> <b>【成果指標】</b> 生涯学習施設の数や設備が充足していると思う市民の割合			
策定時	現状値	前期目標値	評価及び後期目標値について
61.0%	66.0% 	63.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期目標値を 3.0 ポイント上回っており、順調に推移しています。</li> <li>・今後も計画的な改修・改築が予定されており、社会教育施設<small>(用語説明 P53)</small>の設備の充実が期待されることから、当初設定した後期目標値を上方修正します。➡ P27</li> </ul>

<b>《基本施策》 ⑦ 生涯学習推進体制の整備・充実</b> <b>【成果指標】</b> お気軽講座 <small>(用語説明 P53)</small> （出前講座）の実施回数			
策定時	現状値	前期目標値	評価及び後期目標値について
25 回	73 回 	50 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期目標値を上回っており、順調に推移しています。</li> <li>・制度の PR や受講者ニーズに対応した内容に見直しを行うことで利用拡大が期待されることから、当初設定した後期目標値を上方修正します。➡ P29</li> </ul>

